



## 大原美術館後援会会報

# 丸窓

[第32号] 令和7年6月

### 《掲載情報》

- ・児島虎次郎記念館グランドオープンについて
- ・財団本部、事業部より
- ・ミュージアムショップより など

発行：大原美術館後援会事務局

## 児島虎次郎記念館グランドオープンについて



### 児島虎次郎記念館が開館いたしました！

大原美術館後援会事務局長 森川 政典

今年は昭和100年ですが、大正11年に竣工したこの建物はそれ以上の歴史を歩んできた建物です。この建物が新たに「児島虎次郎記念館」として生まれ変わりましたのでご報告申し上げます。

元々は倉敷アイビースクエアの敷地内に位置していましたが、施設の老朽化は否めず平成29年に閉館し、本館で貴重な文化財を一部展示してまいりました。児島虎次郎記念館の場所探しは続いていたところです。

一方、平成28年5月に中国銀行様から支店等に活用された建物(中国銀行倉敷支店倉敷本町出張所)を寄贈されることとなります。何というタイミングでしょうか！この建物を新たな児島館(仮称「新児島館」)としてリノベーションすることにいたしました。この時までも第三創業基金として多額の寄付を法人、個人のみならず頂戴していました。加えて、令和2年には「百年愛された銀行建築を児島虎次郎記念館へ再生するプロジェクト」を立ち上げ、多くの法人から目標額を募り開館を目指す計画でスタートしましたが、その矢先、世界を氷結したCOVID-19の影響で計画は延期せざるを得ない状況となりました。それでも同年、第1期工事に着手し令和3年9月に竣工しましたが、展示室としての設えまでには到底及びませんでした。「建物は既に完成しているのにずっと閉めたままで良いのか？」との考えをもとに10月から翌年の11月まで暫定開館をいたしました。現代美術家のヤノベケンジさんの協力を得てサン・シスター(リバーズ)が展示されたことを思い出されたお客さまも多いのではないのでしょうか。

その後、令和6年収蔵庫の整備・展示ケースの製作などに向けた第2期工事が始まります。総事業費10億円の内、残る目標3億2000万円の資金集めも倉敷市企業版ふるさと納税の事業に採択され、その事業スキームをフル活用させていただきました。この取り組みにより倉敷市をはじめ多くの方々からの熱い応援メッセージを感じ取ることができました。最終的には文化・芸術機関の持続可能な運営を支援する“新たな資金調達モデル”としての可能性を追求するため中国銀行様の協力を得てミュージアム債を発行することといたしました。そしていよいよ令和7年3月のプレオープンを経て、4月3日児島虎次郎の誕生日にグランドオープンをする運びとなりました。山あり谷ありと難産の末の事業であったからこそ、これから100年先も多くの人々に愛され続ける施設であることを願っています。



グランドオープンイベントの様子



オープンと同時に扉を開く瞬間



1階展示室の様子

児島虎次郎記念館の展示について

特命上席研究員 吉川 あゆみ



児島虎次郎記念館内観



ステンドグラスの半円窓

4月3日、コロナ禍による紆余曲折を経て、児島虎次郎記念館がようやくグランド・オープンしました。この建物が中国銀行の支店・出張所であった頃を知る方は、「通帳を手に長椅子で順番を待ったあの吹き抜けの営業室は、一体どんな風になったの？」と気になっていることでしょう。漆喰のレリーフや瀟洒なステンドグラスが美しい旧営業室は、この建物が竣工した大正時代の面影もそのままに、オリエント古美術の展示室に生まれ変わりました。

作品を保護しつつも建築本来の魅力を損なわないようデザインされた展示ケース(免震機能も付いています！)や、スポット照明のための鉄骨架台などの設備によって、展示作品と建築空間とが響き合う美しい展示室が実現しました。

幕開けを飾る今回の展示は、虎次郎が収集したオリエントの遺物、中でも100年前の大正時代に倉敷をはじめ、京都、東京で一般公開された作品を中心に構成したものです。大正時代の建築空間の中で、大正時代の「特別な倉敷」を追体験してもらえれば……と考え企画しました。この他、増築部分に整備した児島虎次郎作品のための展示室には、選りすぐりの代表作を展示しています。

是非お早めに、児島虎次郎記念館におはこびください！

事業部(プロモーションチーム)より

大原美術館とあなたが紡ぐ物語～小川洋子がいざなう朗読会Ⅶ～

プロモーションチーム長 林 真弓



今年度からプロモーションチーム長になりました林です。大原芸術財団と来館者のみなさまを繋ぐPR活動をしております。今回は、6月7日実施された、OHK岡山放送との連携イベントをご紹介します。2013年のクリスマスイブに開催された初回から12年、この度7回目の実施となりました。

この朗読会は、大原美術館の収蔵作品や建物、風景をテーマとして400字程度の短編文を募集し、岡山県出身の芥川賞作家・小川洋子さんが入選作を選定するものです。今回の第7回目は絵画作品をテーマにしたものを中心に全部で212件もの応募を頂き、中には本館2室のベヒシュタインのピアノをテーマにしたものもあります。入選作品は、OHK岡山放送のアナウンサーの方たちによって本館2室の特設会場で朗読され、今回は朗読に合わせてチェロの生演奏も行われました。

閉館後の美術館をアナウンサーの声とチェロの音色が彩り、普段ご覧いただく美術館とはまた違った魅力を感じることができました。

今年、どんな作品が朗読されたのでしょうか。こちらの朗読会の模様は、2025年7月12日(土)12時からOHK岡山放送の特別番組として放映される予定です。ぜひご覧ください。



イベントチラシ

ミュージアムショップ情報

オリエント関連商品のご紹介！

児島虎次郎記念館開館に向けて、少しずつオリジナル商品を開発してきたオリエント商品のご紹介をさせていただきます。写真の中でも、じわじわと人気が出てきてお問い合わせが続いている商品が「猫」のピンズです。小さいですが、立体で存在感抜群です！もうひとつは、刺繍ブローチの2種類です。精巧な刺繍技術により立体感を演出した逸品です。スタッフの間でも「地母神」派と「リュトン」派で人気を二分しています。ぜひショップでご覧ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



刺繍ブローチ 各¥2,750円(税込)

《猫》ピンズ ¥660(税込)

地母神

表紙の写真



地域に親しまれた歴史ある銀行建築が、児島虎次郎記念館に生まれ変わりました。大原美術館入館券に引き換えていただければ、後援会会員さまは、何度でもご覧いただけます。また、元銀行ならではの重厚な金庫やカウンターなどが、そのまま残っている施設です。展示作品プラスαをお楽しみください。



「みんなのマイミュージアム基金」の情報は、右記QRコードからご覧いただけます。引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。



大原美術館後援会事務局 〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15  
TEL(086)422-0005 FAX(086)427-3677  
<https://www.ohara.or.jp/>

